

大空町校務 DX 計画

GIGA スクール構想に基づく1人1台端末の整備、クラウドサービスの活用が進み、一人一人の多様なニーズや特性等に対応した個別最適な学びと協動的な学びを充実させることができるようになりました。

また、全道統一システムである校務支援システムを導入し、校内外の情報共有化を進め、教職員の負担軽減を図ってきました。

今後、校務DXを推進するために「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」、及び「GIGA スクール構想の下での校務 DX について～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に示されている教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、次の事項を推進します。

1. 押印・署名が必要な書類の見直し

これまでに、デジタル化の進展によりデータの共有化が進んでいるが、保護者・外部とのやりとりで押印や署名が必要な書類やFAXの使用がまだまだ多く、学校の働き方改革を図る上で見直しは急務です。各種書類の取り扱いについて検討を行い、校務の効率化、ペーパーレス化を促進させるとともに、書類のデジタル化を進めます。

2. クラウド環境を活用した校務DXの推進⇒校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、教育ネットワークは児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネットから児童生徒の個人情報にアクセスできない構成となっています。そのため、両端末をそれぞれ用意し、「校務用端末」の持ち出しを原則禁止しています。学校の働き方改革と教育活動の高度化を目指し、教員のタブレット端末から学習系・校務系両方のネットワークを利用できるよう、セキュリティ対策を踏まえ、ネットワークの統合について調査研究を進める。

3. 校務における生成AIの活用⇒より強固なセキュリティ対策の構築

パブリッククラウド上で学習系・校務系情報を取り扱うに当たっては、より強固なアクセス制御による対策を前提とするセキュリティの考え方が求められています。また、校務の効率化や教育の質の向上を図る上で、生成AIの利活用に向けての調査研究を進めることが求められています。教育DXが進展する中で、教育委員会及び学校に必要とされるセキュリティ対策は高度化し、ますます重要度が増しています。令和6年1月に改訂された「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を踏まえた情報管理体制の再構築を進めます。